



「ずっとまでもこの町の『きらり』を忘れない」
音田 里穂子



「ずっとまでも育ててくれた親に感謝したい」
池未 裕輝

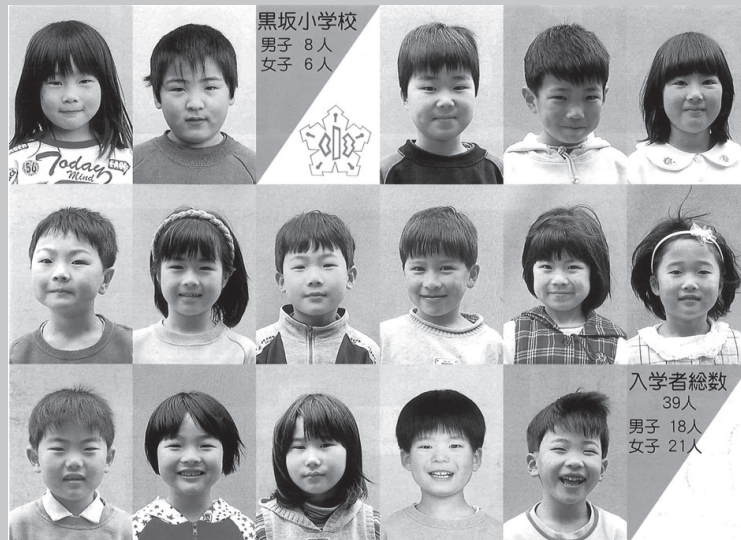
■新成人代表あいさつ

新成人を代表して、音田里穂子さん（別所）と池未裕輝さん（下黒坂）があいさつしました。音田さんはその中で「現在、私は夢を探しに大学へ通っています。そこで環境について学んだり、仲間と音楽を楽しんだりしています。思い返せば、自然に興味を持ったのはこの町の新緑の美しさに感動したのがきっかけです。音楽が好きになったのも、森の子合唱団やミュージカル、吹奏楽部での楽しい経験があったからです。今の自分を作ってくれたのは日野町なのだ実感しています」と話し、「いつまでもこの町の景色や人の温かさなどの『きらり』を忘れないようにします。私たちはこれからそれぞれの道を歩み、離れ離れになります。みんなの心にも日野町があればいいと思います」と自分たちをはぐくんでくれた日野町への感謝の言葉を述べました。

また、池未さんは「いつも朝早く起きてご飯を作ってくれたり、ここまで自分を育ててくれた母に感謝したい。ぜひ肩たたき券をプレゼントし、感謝の気持ちを込め、肩をたたいてあげたい」とユーモアたっぷりに話し、「この感謝の気持ちを忘れず、これからもそれぞれの目標に向かって進んでいきたい」と誓っていました。

当時もこんなにかわいかったんですよ！
小学校に入学したときの新成人

【広報ひの平成13年4月号掲載】



町内のコーラスグループの皆さんも加わり、参加者全員で町民歌「きらり この町」を歌いました





▲牛乳を片手に笑顔で乾杯！



▲仲間たちと給食を囲み、さらに話に花が咲く



▶給食を前に「懐かしい！」と思わず笑みがこぼれる

■近況や思い出話に

花が咲く

式典修了後は、山村開発センターで、懐かしい学校給食を囲みながら懇親会が行われました。給食のメニューは、サバのみそ煮、麦入りスープ、中華サラダ、お米のムース、フルーツポンチが並び、乾杯はもちろん牛乳で。恩師や仲間たちの懐かしい思い出話に花が咲きました。

また、後藤直哉さん（小河内）の司会でそれぞれの近況報告を行いました。

新成人からは「電気関係の仕事をしている」「自動車の整備士として就職予定」といった社会人として一歩を踏み出しているといった報告から、「消防士や保育士になるために勉強をしている」「大学でやりたいことを探している」といった将来の夢に向かって歩き出していることなどが語られ、みんな熱心に聞いていました。

最後まで話は尽きないながらも、それぞれの地での活躍と再会を確認していました。



◀▲卒業後の思い出のすき間を埋める近況報告

根雨小学校
男子 10人
女子 15人



◀最後に「楽しかった」とパシヤリ

